

第2次
滝川市環境基本計画・地域行動計画

年 次 報 告 書
(令和3年度版)

滝 川 市

◇第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画 年次報告書とは…

滝川市「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」（以下「環境基本計画」という。）では令和7年度を目標年度とし、平成28年3月に策定し滝川市がどのような取組を行っているか、また、実際にどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することを取り決めています。この報告書は、その一環として、前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。なお、中間年にあたる令和2年3月に計画の見直しをしています。

「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」とは

目指すべき環境の姿を実現するため、次のとおり基本目標を掲げ、この基本目標を達成するため、環境を構成する4つの分野のそれぞれに基本目標を定めます。

基本目標

豊かな環境を1人ひとりが守り育む
『環（わ）のまち』たきかわ

目標1 生活環境

環境にやさしく、資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

目標2 地球環境

エネルギーを大切に、環境への負荷の少ないまち

目標3 自然環境・農業

身近な自然と触れ合うことで、その大切さや素晴らしさを実感できるまち

目標4 環境コミュニティ

みんなが学び、共有することによる環境保全の環（わ）が広がるまち

計画では令和7年度までに、次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

項 目	目標値	備 考
市民1人・1日当たりのごみ排出量(家庭系ごみ) ※資源ごみは除く	500g	—
リサイクル率	25.0%	—
エコドライブによるCO ₂ 削減	172,100 kg/年	—
滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量	4,250kg	1年間に消費したエネルギー量を原油量に換算
エコネット登録団体の自然保護活動参加人数	8,700人	—
農業体験授業(事業)実施校数	80%以上	—
環境学習リーダー養成講座の受講者数	350人	第1次計画175名からの累計
環境市民大会における参加者の平均評価点	85点以上	—

(1) 生活環境（身近な問題）

1 令和3年度における数値目標の達成状況について

市民1人・1日当たりのごみ排出量（家庭系）

目標値（令和7年度時点）	500 g/人・日
実績値（令和3年度）	571 g/人・日

リサイクル率

目標値（令和7年度時点）	25.0%
実績値（令和3年度）	19.3%

令和3年度の評価



昨年度はコロナ禍による外出自粛制限が解除された影響により、事業系の生ごみや資源ごみが増加傾向になってます。一方、家庭系のごみは、外出する機会が増えたことで、生ごみや燃やせるごみが減少傾向にあります。

資源回収は容器の材質変更や容器そのものの軽量化の影響もあり、収集量は年々減少傾向にあります。

区分		単位	2年度	3年度
収集人口 ①		人	38,929	38,390
収集世帯		世帯	21,128	21,017
家庭系	生ごみ	t	1,540	1,421
	燃やせるごみ	t	5,239	5,150
	燃やせないごみ	t	469	458
	粗大ごみ	t	957	968
	資源ごみ	t	635	637
	計 ②	t	8,840	8,634
事業系	生ごみ	t	1,476	1,839
	燃やせるごみ	t	2,148	2,118
	燃やせないごみ	t	72	60
	粗大ごみ	t	137	173
	資源ごみ	t	57	65
	計 ③	t	3,890	4,255
資源化量 (資源回収以外)	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	t	432	413
	生ごみより回収 ※H29年度から生ごみからのバイオガス分を追加	t	446	469
	資源ごみより回収	t	664	674
	計 ④	t	1,542	1,556
資源回収	拠点回収	t	68	25
	集団資源回収	t	1,199	1,121
	資源回収の合計 ⑤	t	1,267	1,146
合計 ⑥ (②+③+⑤)		t	13,997	14,035
埋立処分量		t	971	1,024
リサイクル率 (④+⑤)/⑥		%	20.1	19.3
市民1人・1日当たりのごみ排出量（家庭系※1）		g	577	571

※1 資源ごみ及び資源回収除く

2 令和3年度における主な取組について

- (1) 市民運動エコライフたきかわ(＝エコたき)の推進
滝川市では、新しい市民運動として、平成28年度からいつでも、どこでも、だれでも簡単にできる「人」と「地球環境」にやさしい行動「エコたき」を推進しています。

令和3年度は「エコたき」の基本となる「エコたき4か条」の「コ(ゴミを減らして快適ライフ)」を重点目標とし、環境市民委員会で審議いただきました。

また、環境に興味を持つ生徒が北海道環境財団から環境学習の専門的な指導を受け、環境学習リーダーadvanceとして小学生に環境学習を行い、地球温暖化に興味・関心を持つきっかけづくりを行いました。



- (2) 集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、奨励金を交付しました。

実施団体数 延べ286団体(前期143団体、後期143団体)

奨励金交付額 224万円(前期111万円、後期113万円)

単位：t

		2年度	3年度
区分	紙パック	5	4
	紙類	921	859
	びん類	126	113
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	74	76
	ペットボトル	73	69
	その他	X	X
	計	1,199	1,121

※四捨五入等の関係で計は一致しない。

- (3) カレンダーリサイクル事業

カレンダーリサイクル事業は、新型コロナウイルス感染予防のため、市役所大会議室での開催を見送りましたが、滝川市立図書館において、感染対策を行い規模を縮小して実施しました。期間中(12月27日～1月31日)にカレンダー及び手帳458点が引き取られ有効活用が図られました。

- (4) 滝川市リサイクルフェア

空知自動車学校の「WaiWai フェスタ」と合同開催の滝川市リサイクルフェアは、新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を見送りました。

- (5) リユースショップ情報発信事業

資源の有効利用やごみ減量推進の一環として、製品等の再利用(リユース)の円滑化を図るべく、市内で古物商を営む事業者店舗の情報を集約し「滝川市リユースショップ一覧表」として情報提供を行いました。

情報発信依頼店舗数：8店舗

(6) 古着・古繊維の拠点回収について

ごみ減量やリサイクル率の向上を目的として、家庭で不要となった古着・古繊維の拠点回収を滝川市役所や旧粗大ごみ処理センター(中島町 210)、江部乙支所で行いました。
令和 3 年度の回収量は約 7 t で、前年度より 1 t 増となりました。

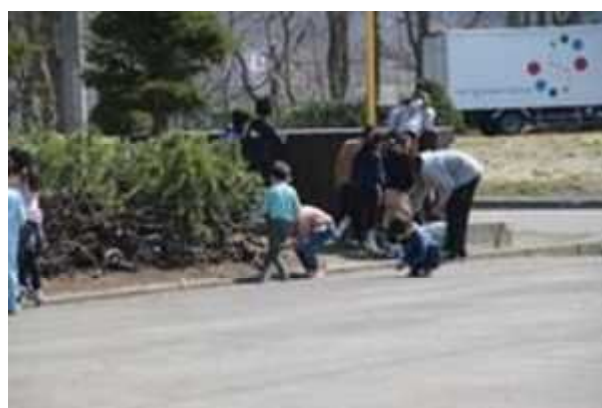
(7) ベットボトルリサイクル方法の変更について

令和 3 年 4 月よりベットボトルの回収方法を変更し、新たにラベルをはがすことにより、リサイクル効果の高い「ボトル to ボトル」方式を試行導入しました。試行結果では 90% のラベルがはがされており、令和 4 年 4 月から実施となります。

(8) たきかわクリーンデイの実施

清掃による環境美化のみならず、清掃活動を通じた環境保全への意識高揚が期待される全市一斉清掃「たきかわクリーンデイ」を町内会・学校・事業所など多くの市民の皆様にご協力いただき実施しました。

	実施期間	参加団体数等	参加人数
春	設定期間 4 月 9 日～5 月 10 日 実施期間 4 月 4 日～6 月 13 日	127 団体 (町内会：109・事業所：6・団体：6・学校 6) ボランティア袋配布数：40 リットル／2,761 袋 20 リットル／1,370 袋	5,210 人
秋	設定期間 10 月 2 日～10 月 31 日 実施期間 9 月 18 日～11 月 14 日	60 団体 (町内会：54・事業所：3・団体：1・学校：2) ボランティア袋配布数：40 リットル／960 袋 20 リットル／560 袋	1,637 人



(9) 滝川市（公用）ボランティア袋の配布

まちの美化は、住民と行政が互いに協力し合って取り組むテーマであり、多くの人々が利用する道路や公共施設がきれいになっていることは、「心地よさ」とともに地域や市全体の「誇り」です。

きれいなまちで暮らすため、道路、公園、河川、公共施設などの清掃・美化にご協力いただける団体・個人の皆様に、滝川市では無料でボランティア袋の配布を行っています。

なお、クリーンデイに参加される方にも配布しています。

※令和 3 年度は、12,256 枚（40 リットル／8,649 枚、20 リットル／3,607 枚）を配布しました。

(10) 出前講座「教えて！ 私たちのごみはどこへ行く？」

開催日 令和 4 年 3 月 13 日

会場 駅カフェ（JR 江部乙駅）

参加人数 約 40 名

内 容 滝川市のごみ処理の状況について、江部乙まちづくりコミュニティ行動隊女子部が主催する「駅カフェ」で出前講座を行いました。

講座の中で燃やせるごみの中から「雑がみ」を資源ごみとして分別し、ごみの量を減らし、ごみ袋の節約になることを説明するとともに、今後施行されるプラスチックごみの分類についても説明を行いました。



ごみ回収のその後はどうなってるの？ そんな疑問にズバリとお答えします。

滝川市のごみ回収のその後・・・

ごみの分別が大事なのは理解できるけれど、分別されたごみは一体どうなっているの？という市民の皆さんからの声を受けて、右記一覧表を作成し、ホームページに掲載しています。

皆さんにご協力いただき細かく分別されたごみが、どのように処分やリサイクル等されているのかをぜひ一度ご確認ください。



滝川市ホームページ→組織案内→
くらし支援課→ごみ処理関係→
「ごみ回収のその後・・・一覧表」

(2) 地球環境（地球全体の問題）

1 令和3年度における数値目標の達成状況について

滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量

目標値 原単位で年平均 1 %削減

実績値（令和3年度）3,559_{kl}

※前年比 78.8%

エコドライブによるCO₂削減

目標値 172,100 kg/年削減

実績値（令和3年度）927,963 kg/年削減

前年比 —

※原単位とは施設の延べ床面積あたり

令和3年度の評価

日本政府が進める国民運動「COOL CHOICE（＝賢い選択）」と市民運動「エコたき」をキーワードにした「COOL CHOICE でエコたき」を柱とした普及啓発事業を行い、市民や事業者に省エネルギーやゴミ削減を主としたCO₂削減活動に努めるよう周知しました。

今後も、地球温暖化防止の普及啓発事業として環境学習や環境市民大会を行うほか、ホームページなどを通して、年々深刻化する地球温暖化の現状を知ってもらい、市民が温暖化防止に向けて、市民自ら考え・行動できるような呼びかけを行っていきます。

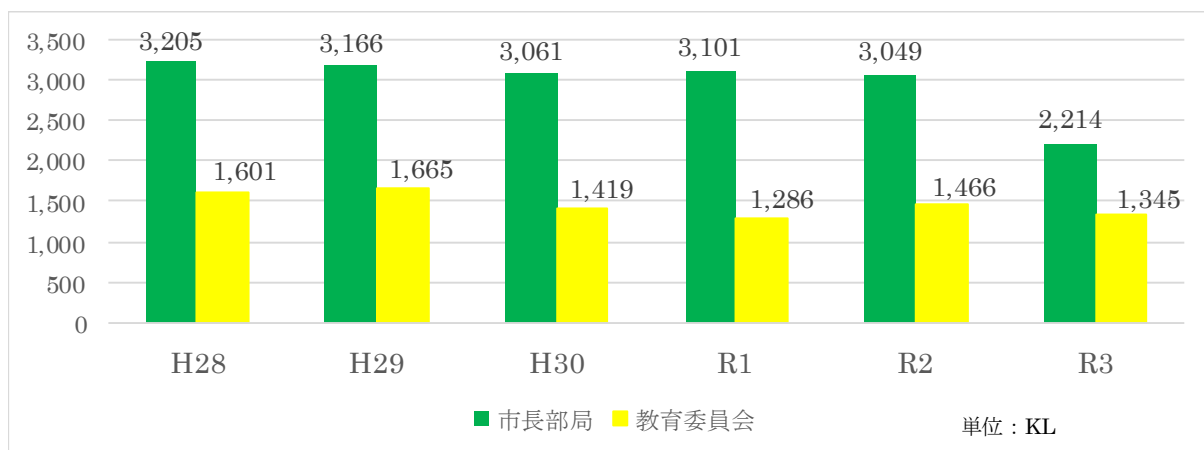


(1) 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量について

滝川市が管理する公共施設全体で令和3年度1年間に消費したエネルギー量は、原油量に換算すると3,559キロリットルになりました。

市長部局での減少が見られますが、これは令和3年度に滝川ふれ愛の里の管理が公共施設から民間施設へ変更になったことが主な理由です。

滝川市の公共施設エネルギー消費量（1年間に消費したエネルギー量を原油量に換算）



(2) エコドライブによるCO2削減

1年あたりの自動車学校卒業時講習受講者500名を年度毎の取り組み者数とし、資源エネルギー発行の「家庭の省エネ徹底ガイド春夏秋冬」で示されたガソリン節約量(年間10,000km走行、平均燃費11.6km/ℓを想定)をCO₂削減量に換算し目標値を設定してます。

令和3年度空知自動車学校卒業時講習受講者443名に加え、高齢者講習時においてもエコドライブ講習を実施し2,253名が受講、計2,696名が受講しました。

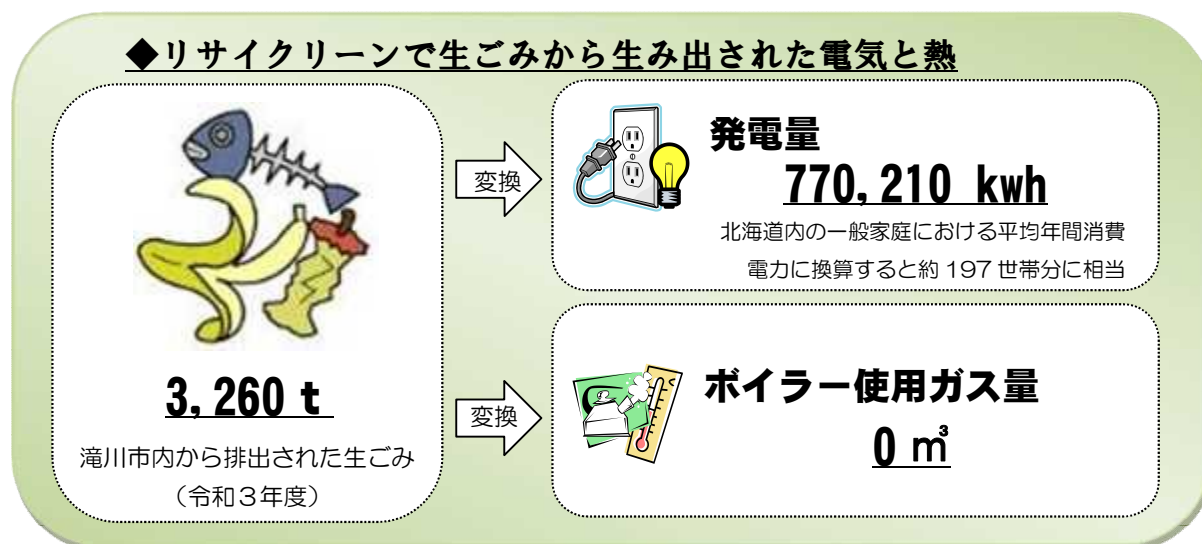
1人あたり1年間でガソリン148.28ℓ節約 原油換算132.42ℓ CO₂削減量344.2kgに2,696人を乗じ、ガソリン399,762ℓ(原油換算357,004ℓ・CO₂換算927,963kg)の削減となりました。

(3) バイオマスのエネルギー利用

① 生ごみのエネルギー利用

東滝川にある中空知衛生施設組合リサイクリン(滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同運営)では、各市町で分別回収された生ごみ(一般廃棄物)からメタンガスを取り出しています。

メタンガスは発電機やボイラーの燃料として供給され、電気や熱に変換され施設運営等に活用されています。なお、令和3年度は電気料金高騰のため、全て発電に使用しました。



※それぞれ、施設全体の発電使用ガス量に滝川市の生ごみ排出割合(64.1%)を乗じた値です。

② 下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は、石狩川流域下水道(北海道及び6市4町により運営)に接続されており、奈井江町内にある下水道処理施設(奈井江管理センター)に送られ浄化されます。

浄化処理の過程で有機物からメタンガスを取り出し、生ごみ処理と同様、得られたガスを電気や熱に変換して利用しました。

	施設全体	滝川市分
I 汚泥処理量(t)	2,676	1,097
II メタンガス発生量(m³)	1,410,000	578,100
III メタンガス使用量(m³) →メタンガス発電等として利用	1,389,000	569,490
IV 発電量(kWh)	1,473,000	603,930

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 154 世帯分に相当

※Ⅱ～Ⅳの滝川市分は下水処理量の割合から按分した値です。

③ 可燃ごみ焼却によるエネルギー利用

滝川市の可燃ごみは、中・北空知廃棄物処理広域連合（５市９町により組織）が設置、管理及び運営している、歌志内市にある一般廃棄物焼却処理施設（中・北空知エネクリーン）に搬入、処理してます。

施設では、ごみを焼却したときに出る熱を利用して蒸気タービンで発電し、発電した電気は施設内で使われ、余った電気は売却し有効活用しました。

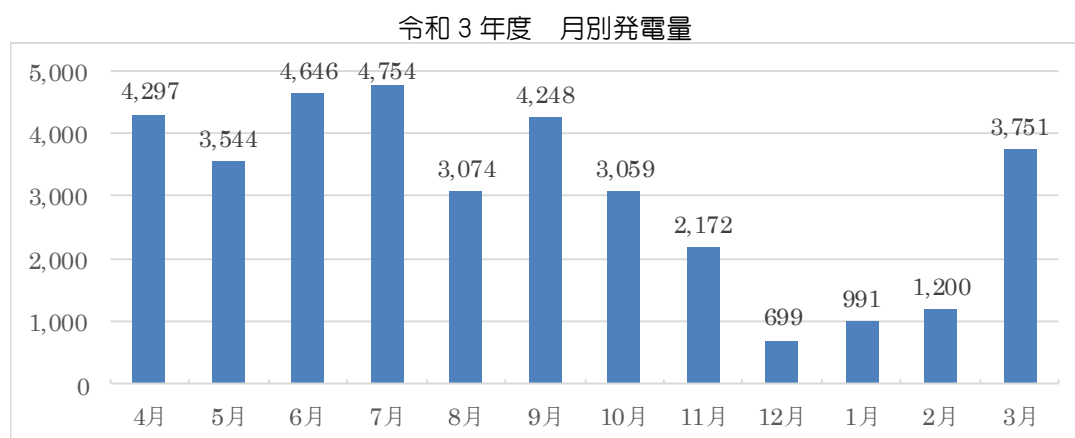
	施設全体	滝川市分
I 可燃ごみ搬入量（t）	23,416	8,495
II 可燃ごみ焼却量（t）	22,584	8,193
III 発電量（kWh）	11,545,452	4,188,530
→売電（kWh）	→6,923,581	→2,511,778

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 1,072 世帯分に相当

※Ⅱ・Ⅲの滝川市分は、Ⅰの割合から按分した値です。

（４） 市内公共施設における太陽光発電設備のデータの公表

平成 22 年度に設置した滝川市役所庁舎壁面の太陽光発電設備のほか、滝川市内の公共施設（北海道滝川高等学校、札幌地方検察庁滝川支部、滝川第三小学校、滝川ふれ愛の里）に設置されている太陽光発電システムの発電量を集計し、滝川市公式ホームページにおいて公表しています。



単位：kWh

※発電量合計は、集計機器トラブル等により、一部の施設の数値が反映されていません。

i) 滝川市役所



- ・出力：5 kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：3,809.1 kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

ii) 北海道滝川高等学校



- ・出力：20 kW
- ・角度：50°
- ・年間発電量：23,312.6 kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

iii) 札幌地方検察庁滝川支部



- ・出力：5kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：6,050.4kWh
- ・設置年月日：平成22年7月

iv) 滝川第三小学校



- ・出力：10kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：10,030.8kWh
- ・設置年月日：平成27年3月

v) 滝川ふれ愛の里



- ・出力：12kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：12,888.91kWh
- ・設置年月日：平成27年4月

(5) 町内会街路灯切替促進補助金

町内会等が維持・管理する街路灯をLEDに切替促進するための補助金を支出しています。

令和3年度実績：359灯

※街路灯のLED化率83.0%（LED：4,972灯、LED以外：1,018灯 合計5,990灯）

(6) 市内コミュニティセンター等の照明をLEDへ切替えしました。

コミュニティセンタ名	場所	切替数
幸町地区コミュニティセンター	研修室	4基
	調理室	4基
	廊下	5基
	事務所	2基
三世代交流センター北地区分館	伝承研修室	3基
	第1研修室	1基
緑地区コミュニティセンター	調理室	4基
	1F手洗い場	1基
	2Fトイレ	2基
緑地区コミュニティセンター	玄関ホール	8基



(3) 自然環境・農業（自然・農業の保全）

1 令和3年度における数値目標の達成状況について

エコネット登録団体の自然保護活動参加人数

目標値（平成28年度～令和7年度累計） 8,700人

実績値（平成28～令和3年度累計） 15,077人

○NPO法人まち・川づくりサポートセンター

・みんとち自然体験楽校／44名

・WETプログラム／4,318名

○江部乙丘陵地のファンクラブ

・フットパス・観察会参加者／189名

○滝川イオンチアーズクラブ

・SDGsに関する活動／60名

○たきかわ環境フォーラム

・自然環境と動物に関する取組／44名

農業体験授業（事業）実施校数

目標値 80%以上 実績値（～令和3年度） 100%

○令和3年度の実施校18校（全18校）（順不同）

滝川幼稚園、白樺幼稚園、一の坂保育所、江部乙保育所、花月保育所、中央保育所、二の坂保育所、第一小学校、第二小学校、第三小学校、東小学校、西小学校、江部乙小学校、明苑中学校、江陵中学校、開西中学校、江部乙中学校、國學院大學



令和3年度の評価

「たきかわエコネット」の自然保護活動実施の呼びかけや支援、農業体験の実施などは、生き物や自然の大切さを知り、限りある資源に感謝する心を育てるために重要なものです。

今後も、民間団体や教育機関等との相互協力を進めながら、継続的に取り組んでいきます。

2 令和3年度の主な取組について

(1) 地域農業の振興と住民等との交流促進のための取組み

①農業体験の推進

グリーンツーリズムに係る取組み

「そらちDEい〜ね」を介した受入事業

時期 令和3年10月28日

参加人数 1校12人

受入農家 2戸

(2) 川との共生に向けた取組み

「NPO まち・川づくりサポートセンター」による取組み

（「NPO まち・川づくりサポートセンター」から報告を受けた文書を転記しております。）

①「滝川地区地域防災施設（川の科学館）」来館者への普及活動

来館者：2,514人

②滝川子ども水辺協議会の活動（みんとち自然体験楽校）

市内の子ども達を対象に、石狩川や周辺の自然を活かして体験活動の面白さや環境保

たきかわエコネット

全などに気づいたり関心を深めたりしてもらうため、春・夏・秋・冬の4つのコースを計画しました。活動を通して仲間との協力や異年齢との人間関係を学び、社会性や郷土愛が育まれることも期待できます。

ア) 春コース

春コースは新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を見送りました。

イ) 夏コース みんなの冒険

開催日 令和3年7月25日

参加人数 17名

内容 石狩川とラウネ川の合流点をスタートし、石狩川と徳富川の合流点のゴールを目指して力を合わせてEボートを漕ぎ、支流の徳富川では川流れや魚すくいを行いました。

夏コースならではの体験を通して、身近な川と災害

・川の危険性、川の環境保全、川遊びの楽しさなど楽しさと危険性の二面性についても意識を高めることができました。



エ) 秋コース みんなの知恵

開催日 令和3年9月26日

参加人数 14名

内容 秋の自然観察を通して、環境の変化や動植物とのつながりについて興味や関心を持つことをねらいに行いました。

また、イタドリで水鉄砲を作って遊び、滝川産リンゴの味比べなど秋の自然を五感で体験しました。



オ) 冬コース みんなのかくれ家

開催日 令和4年2月6日

参加人数 13名

内容 冬の石狩川周辺の自然を観察し、水の変化や北海道ならではの雪に親しむ活動を計画しました。

イグルー制作では、雪を踏み固めてブロックを切り出し積上げる方法で行いました。



午後は、スノーシューで雪原を歩いたり、動物の足跡をたどったり、冬芽を観察したり、雪に閉ざされていても、生物は春の準備をしていることや生命を維持していることなどを体験的に学びました。

③滝川地区地域防災施設を活用した環境・防災の学習 プロジェクト WET

※ プロジェクトWET (Water Education for Teachers)とは…

世界 66 以上の国と地域で活用されている水教育プログラム「プロジェクト WET (Water Education for Teachers)」は、子どもたちが主体的・対話的で深い学びが得られるように開発され、アクティブ・ラーニングの視点と合致するツールです。

(出典：公益財団法人河川財団プロジェクト WET ジャパン)

ア) 流水実験

実験装置による流れる水の働き（浸食・運搬・堆積）を観察し、狭い川と広い川の水の流れを比べ、流れる水の働きによる地形の変化を実験装置で分かりやすく説明しました。

また、水量が増える原因やその結果についても考えてもらい、気象や地形、川との暮らしや災害との関連についても気づいたり考えたりできるようにしました。

(参加人数 898 名)



イ) 自然再生ジオラマ

石狩川は、長さ日本第3位の一級河川である。実験装置で蛇行している川と治水により直線になった川の流れ方の違いを目で確かめることにより、流速や低地の様子、川の役割などを学年に応じて分かりやすく説明しました。また、石狩川とともに人々の暮らしや産業が発展したことにも気づいてもらえるように説明しました。

(参加人数 898 名)



ウ) 水の環境学習

地球上を取り巻く水や地球環境について体験的に学ぶ活動として、いくつかのアクティビティを行いました。「驚異の旅」「水のババ抜き」「青い惑星」など手軽に出来るものを準備して行いました。

(参加人数 1,047 名)



エ) 石狩川 1/1000 模型で調べよう (リバーワーク)

神居古潭から石狩湾までの流域で合流する河川名、市町村名、ショートカットによりできた三日月湖を調べたり笹舟をながしたり、石狩川の中流域の様子や滝川市の近隣市町の様子を模型の川を歩きながら確認したり水と触れ合ったりしていました。

(参加人数 1,270 名)



わ)川から自然環境を考える活動（川下り）

川から見る自然を体験してもらうため、Eボート（10人乗りのゴムボート）による川下りを実施した。参加者には、石狩川や支流の空知川下りを通して、河川環境や文化・歴史・暮らし、災害・減災・防災などについて気づいたり考えたりしてもらうことを期待しています。

参加者は、川底の太い流木や川岸の漂流物、浮遊するプラスチックゴミなどを目の当たりにし、水災害の恐ろしさや川のゴミは街からのゴミであること、流域全体で環境を考えることが大切であることなどに関心を寄せており、きれいな水かどうかの水質を判断する指標の水生生物を見つけて観察なども行いました。

また、小学校団体を対象に防災学習として水流や水圧を体験する「浸水市街地想定歩行訓練」「川流れ」を実施しました。

空知川では、今では採炭されなくなった石炭の大露頭を川から見ることができ、地域の産業遺産にも関心を持っていました。

（参加人数 166 名）



か)人材の育成

万一に備えた救助訓練や川下りに備えたボートの操作訓練を行いました。

流況が違う石狩川および空知川で講習会を行ったが、川は季節や天候、上流の状況によって変化するので訓練を繰り返すことが大事であることを実感しました。

また、教員採用試験合格者や教員を対象に水の環境学習指導者養成講座（プロジェクト WET）を実施しました。

（参加人数 39 名）



（3） 森との共生に向けた取組

たきかわエコネット

「江部乙丘陵地のファンクラブ」による取組

フットパス（5回）

開催日 令和3年5月22日～
令和4年3月6日

内容 江部乙丘陵地を歩いて、
自然観察等を行いました。

参加人数 延べ112人

自然観察会（6回）

開催日 令和3年4月25日～
令和4年3月13日

内容 自然観察の森ほかで、自然観察等を行いました。

参加人数 延べ77人



(4) SDGsに関する取組

たきかわエコネット

「滝川イオンチアーズクラブ」による取組

(「滝川イオンチアーズクラブ」から報告を受けた文書を転記しております。)

チアーズクラブは、小中学生を対象として環境学習の活動をしています。

滝川では店での一般参加と江部乙学童クラブの2箇所で開催。

ごみを減らす取り組みやリサイクル活動の勉強を通してSDGsへの知識を深めかべ新聞を作成し成果発表を行いました。

①「SDGs」って何かな？

開催日 令和3年7月26日

参加人数 13名

内容 SDGsとは何かを説明。カルタなどのゲームを使い、楽しみながら学びました。

参加者の感想

- ・SDGsのことをはじめて勉強しました。むずかしいと思ったけれど、ゴミや電気やエコバッグや、自分たちでできることがたくさんあることがわかりました。
- ・SDGsをダンスの歌とダンスでおぼえられておもしろかったです！
- ・2030年になったら私も大人です。未来のために1つ1つがんばります！



②生物多様性って何？

開催日 令和3年8月2日

参加人数 15名

内容 専用アプリ「バイオーム」を使って、江部乙学童クラブ周辺の生物を調査グループに分かれて点数を競い合い、表彰しました。

参加者の感想

- ・「生物多様性」について勉強しました。いろいろな生き物が、それぞれ食べられる関係になっています。いま、空知でもアライグマやカエルなど外国から来た生き物が問題になっています。強い生き物が来ると日本にもともといた生き物が死んでいまいます。これ以上増やさないでほしい！
- ・「生き物調査隊」はとっても楽しかったです！いろいろな生き物がいてつかまえて写真をとるのは大変でした。スマホや本で名前を調べるとちがいがわかりにくい、たくさんの種類がいました。点数にしてチームで何点取れたかを発表しました。またやってみたいと思いました！



③ゴミをへらそう

開催日 令和3年8月4日

参加人数 15名

内容 いろいろなゴミを減らす工夫を学び、クイズ形式でゴミの分別などを楽しみながら学びました。

参加者の感想

- ・今、世界中でゴミが問題になっています。ゴミを出さない工夫と、ゴ

ミを出すときは分別して出すことが大事です。

- ・プラスチックも海でマイクロプラスチックになって、魚や生き物が死んだりしています。ストローも紙になってきているようです。
- ・食べ物をゴミにしている国と、食べ物がたりない国があって日本はたくさんすてています。食べる分だけ買ったり、作ったりして食べ物をすてないようにします。食べ物があることを、当たり前と思わないようにします。
- ・ゴミのクイズとゴミを分けてなげるゲームをしてゴミのことを学習しました。
- ・カンにもスチールとアルミのちがいがありました。プラスチックもリサイクルできるものとできないものがありました。できるだけリサイクルできるものを使って、すてないできれいに洗ってリサイクルに出していきます。



④ ゴミから作ろう

開催日 令和3年8月5日

参加人数 17名

内容 ゴミを活かす活動について学びました。分けて出したゴミは、どうやって使われるのか？リユース、リデュースリサイクルのことを学習しました。



参加者の感想

- ・イオンのお店でも、リサイクルしたハンガーや、くり返し使えるコンテナで商品が入ってくる取り組みをしていることがわかりました。
- ・オリンピックのメダルもスマホなどから取り出した金ぞくから作って、表しう台もリサイクルしたもので作っていて東京オリンピックでもたくさんのゴミが使われていました
- ・イオンでゴミになるシュレッダーごみを水でとかして、木工ボンドを入れて紙ねんどになることがわかりました。しっかりとかさないと、うまくなんどにならなくて、リサイクルもむずかしいとわかりました。でもいろいろな形ができておもしろかったです。さいごに、これからどんなことをやっていくかをまとめておわりました。

⑤ 活動展示

開催日 令和3年6月21日～7月20日

会場 滝川市立図書館

内容 空知の環境をテーマとして取り組み、滝川の農業とタキカワカイギウについて調査を行い、壁新聞にまとめ、環境月間に合わせて展示を行いました。



(5) 自然環境と動物に関する取組

「たきかわ環境フォーラム」による取組

(「たきかわ環境フォーラム」から報告を受けた文書を転記しております。)

① 東滝川地域の野生コウモリ観察調査活動

期 間 令和3年4月～11月

場 所 東滝川地区

内 容 平成24年から毎年春から晩秋にかけて、野生のカグヤコウモリ（北海道レッドリスト2016準絶滅危惧種）の「繁殖ねぐら」で、と協働で、生態学的なモニタリングを継続しています。この調査によって、コウモリたちの知られざる生態が徐々に明らかになってきました。

これまで4次にわたる報告書を、「たきかわ環境フォーラム」のウェブサイトで公開しています。



② ドキュメンタリー「カムイチェブ サケ漁と先住権」
上映会と藤野知明監督シネマトーク

開 催 日 令和4年3月26日

会 場 滝川市まちづくりセンター「みんくる」

講 師 藤野知明監督

参加人数 44人

内 容 滝川映画サークルとの共催イベント。

アイヌがカムイチェブ（カムイに与えられた魚）と呼ぶサケをめぐって、「先住民族としてサケを捕る権利」の回復をめざすアイヌ漁師たちの社会運動を追ったドキュメンタリーを上映しました。アイヌ／非アイヌの多くの市民が観賞し、上映後には、藤野知明監督を交えて有意義な意見交換が行なわれました。



民間団体の活動のピックアップについて

「NPO法人まち・川づくりサポートセンター」、「江部乙丘陵地のファンクラブ」、「滝川イオンチアーズクラブ」、「たきかわ環境フォーラム」は、市内で活動する民間団体として、それぞれ特色ある取り組みを展開していることから、目標3『自然環境・農業（自然・農業の保全）』を積極的に推進する団体として取り上げさせていただきました。それぞれの団体につきましては、たきかわエコネット(P21 参照)にも記載されていますので、そちらもご覧ください。

なお、民間団体の取組については、今後もピックアップしていきたいと考えていますので、「たきかわエコネット」へのご登録をお願いします。

(4) 環境コミュニティ

1 令和3年度における数値目標の達成状況について

環境学習リーダー養成講座受講者数

目標値（平成18年度～令和7年度累計） 350 人

実績値（令和3年度累計） 370 人

（うち令和3年度 54人）

環境市民大会における参加者数

目標値 100 名以上

実績値（令和3年度） 473 名

環境市民大会における参加者の平均評価点

目標値 85 点以上

実績値（令和3年度） 89.4 点

令和3年度の評価

先生役となる若い世代の高校生が、環境保全に取り組むことで、地域住民の関心を高め、市民が自らの行動を振り返り、個々の意識向上に繋げることが期待できます。

さらに、環境学習リーダーも様々な人との関わりや人に教える経験を通して、環境に関する知識を深めるとともに、協調性や自主・自立性を養い、将来の地域づくりを担う人材に成長する貴重な場になっています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、形態を変えながら実施した事業もありますが、今後も市内の教育機関や環境団体等と連携し、より多くの市民が環境問題について考える機会を提供していきます。



2 令和3年度の主な取組等について

(1) 環境学習リーダー

次世代を担う高校生が、専門的な講座受講や子ども達へ教えるという活動を通して、高校生自身も自らの行動を振り返り、自分自身で考え、人と地球に優しい行動ができるようになることを目的に実施しています。令和3年度は滝川高校理数科1年生40名が新たに環境学習リーダーとなりました。

令和3年度は新型コロナウイルス感染予防のため、当初予定していた保育園児との交流の実施を見送りましたが、リーダー側と園児側に分かれ模擬的な交流を行いました。

日 時 令和3年12月3日

主 催 北海道滝川高等学校

会 場 滝川高校 多目的ホール



滝川高校で開催されたサイエンスデーで小学生達に環境学習を行いました。

日 時 令和3年12月4日
主 催 滝川高等学校
会 場 滝川高校 体育館



(2)環境学習リーダーAdvance

環境学習に興味を持つ生徒が、地球温暖化の現状と自分たちの暮らしの関係を学び、市民運動『エコライフたきかわ（通称：エコたき）』で目指している「人」と「地球環境」にやさしい行動ができる人材育成並びに市民間における環境問題への意識向上を目的としています。

日 時 令和4年1月12日
主 催 滝川市、滝川高等学校
会 場 東地区児童センター
内 容

環境に興味を持つ高校生14名が北海道環境財団から環境学習に対する専門的な指導を受け、環境学習リーダーadvanceとして小学生に環境学習を行い、地球温暖化に興味・関心を持つきっかけづくりを行いました。



(3)環境市民大会「高校生環境シンポジウム in 滝川高校」

主 催 滝川市
共 催 滝川高等学校
開 催 日 令和3年11月13日
会 場 滝川高等学校 体育館（一般市民はオンライン参加）
人 数 473名（滝川高校生徒428名）

【第1部】基調講演

演 題 「SDGs（持続可能な開発目標）に私たちができること」
～水に流せない水の話～

講 師 北海道地球温暖化防止活動推進員 安倍 隆 氏

内 容 今年度はコロナウイルス感染症対策として、一般市民はオンラインでの開催となりました。

くらしと地球温暖化の関係を学び、年々深刻化する地球温暖化の防止に

向けて、家庭や地域で取り組まなければならないことを認識する機会として開催しました。

今年度は「SDG s」をテーマに「水」を主体に講演頂き、日本人が文化的な生活を送るのにひとり一日当たり 400ℓの水を消費する一方、世界には水道が普及しておらず、1日2～3時間かけて水を調達するのは女性や子供たちの仕事で、そのために十分な教育を受けられない国々があることが紹介され、水道水を飲用して健康上の問題がない国は、世界で日本を含め数か国に過ぎないことの報告がありました。

水はSDG sの目標の一つである「6 水・衛生」に直接関係するほか「3 保健」「4 教育」「5 ジェンダー」「13 気象変動」などいろいろな目標に関係し、重要な問題の一つとの説明がありました。

高校生からは質疑の際に発言があったほか、講演終了後も講師に直接質問するなど積極的な姿が見られました。



【第2部】生徒活動発表
内 容 「SSH 東北研修報告」

「水田から発生する温室効果気体を抑制する」

スーパー・サイエンス・ハイスクール（通称：SSH）のカリキュラムの一環で環境問題についての発表を行いました。



（4）環境教育講座

主 催 第一小学校
講 師 北海道地球温暖化防止活動推進員 岡崎 朱美 氏
開 催 日 令和3年11月24日
会 場 第一小学校 5年生教室
参加人数 5年生 30名

内 容 総合の授業の一環として、身近な家電の消費電力測定を通して、今後の授業で、エネルギーなどについて調べていくきっかけづくりとして開催しました。

温暖化の影響についての説明の際は、2018年の台風被害の写真や今年の豪雨や台風の被害の写真を使ったり、クイズ形式を取り入れたりするなど、子供たちの興味を引く内容で進められました。

電気消費量については、3種類の電球（白熱電球、電球型蛍光灯、LED電球）、ドライヤー、掃除機、TVの消費電力を多い順番を予想した後、簡易検電器「ワットモニター」で消費電力が実際に測定し、予想との違いに驚く様子が見られました。



(5)環境教育講座

主 催 開西中学校
 講 師 北海道地球温暖化防止活動推進員 奥谷 直子 氏
 開 催 日 令和4年3月15日
 場 所 滝川市立開西中学校 体育館
 参加人数 1年生 45名
 内 容 中学3年間で学ぶ「環境保全」に対する意識を高めることを目的とし開催しました。

現在の環境破壊についての認識を改めることができたり、風力発電の細かな状況を知ることができた。また、環境エネルギーとピークシフトについての理解を深める良いきっかけとなりました。



(6)市内保育所と連携したエコドライブ啓発展示

主 催 滝川市
 開 催 日 令和3年6月21日～7月20日
 会 場 滝川市立図書館
 内 容 滝川市内保育所園児による「エコドライブ」のぬり絵展示を行いました。



たきかわエコネット登録団体：8団体(令和4年3月末現在)

団体名	活動内容	団体名	活動内容
滝川イオンチアーズクラブ 	チアーズクラブは全国のイオンで、小中学生を対象として環境学習の活動をしています。 滝川では店での一般参加と、江部乙学童の2箇所を実施。 SDGsについて調べ、目標とする2030年に向けて自分たちが出来る事を考えたり、空知のいろいろなことを調べ、年1回新聞にまとめ発表します	日本野鳥の会滝川支部 	滝川市を中心に空知管内でバードウォッチングを通して自然保護活動が続けています。石狩川と空知川の2大河川が流れる空知には広大な河川敷地と河畔林があり、草原や森林を好む鳥たちの重要な繁殖地となっています。 また、河川改修でできた三日月湖も多く残っていて、渡り鳥たちが旅の途中で羽を休め繁殖地や越冬地に向かいます。そんな野鳥たちの観察記録を蓄積し、鳥たちの生息環境の保全活動をしています。
江部乙丘陵地のファンクラブ 	江部乙丘陵地は農村部に珍しいほどの豊かな自然を生み育ててきた土地です。 私たちは、この地に多くある魅力を道内はもとより日本全国へ発信するため、フットパスや自然観察会を軸とした地域密着型の環境への取組を行っています。 私たちの取組が、地域の活性化に少しでも役立てば幸いです。	たきかわ環境フォーラム 	市民グループ「たきかわ環境フォーラム」は、1つのキーワードを掲げて活動しています。それは「エコアップ!」。 私たちが暮らす地域の環境を見つめ直しながら、少しずつ「自然の豊かさ」を高めていこう、という願いを込めました。実現のために情報を集めたり、その情報を再発信したりする役目も果たせたらと思っています。
滝川消費者協会 	本会は環境保全への取組はもちろんのこと、消費生活の安定向上及び消費の合理化普及を目指すため、各種イベントを開催し、会員相互の親睦及び一般消費者とのふれあいを目的に事業を行っています。	滝川おもしろ食育塾 	滝川市内の未成年者の農業体験を主軸とする食育教の企画、現場活動を行っています。 中空知で生まれ育った子供たちが、命をつなぐ食と人との関わりを五感で感じることや、故郷の農村に誇りを持っていただくことなど、その後に良い影響を受けてもらうことを目標に活動しています。
手紬染織工房たきかわ 	滝川で飼育されている羊の毛を主に使い、身近にある草木で自然の色を染め、糸を作って織物や編み物など、日常的に使用できる作品を作り、販売することで羊毛の暖かさや、自然の色の素晴らしさを知ってもらうことを目的として活動しています。	まち・川づくりサポートセンター 	石狩川再生の森整備、ゴミ拾い活動、水防水難訓練支援（レスキュー訓練、舟漕ぎ大会）、たきかわ子ども水辺協議会の活動、指導者の育成（RAC、CONE、プロジェクトWET・ワイルド・ラーニングツリーなど）

環境都市宣言

わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21 世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。

平成 15 年 1 月 1 日

滝 川 市



第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画

— 年次報告書 —

(令和3年度版)

令和4年7月1日作成

〒073-8686

北海道滝川市大町1丁目2番15号

滝川市 市民生活部くらし支援課（環境衛生係）

電 話 0125-28-8013（直通）

F A X 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.hokkaido.lg.jp